

# 社乃柱

秩父神社社報

柞乃杜（ははそのもり）

第 20 号

平成 11 年 12 月 3 日  
(大 祭)

御即位十年奉祝記念



## 御即位十年を言祝ぎ奉る

昭和の御世みよが改まり、平成の御世みよ替がわりして早くも十年。

日本國の象徵みしるしにして、日本國民統合の象徵みしるしたる天皇命すめらみこと。

天津日繼あまつひつきと、この中津國なかつくにを「修理固成つくりかためなせ」との太古たいこの神命みことを、  
世よごと受け継がれて連綿れんめんと百二十五代。

変転極きわまりない世界の歴史を、唯ひとつ貫いて変らぬ日本文化の証あかし。  
「君が代」と声高らかに讃たたえ奉まつることこそ、我ら同胞の心の証あかし。

解説 秩父神社(19)

彩の国名工會々長

坂本才一郎

祖父祐祐祐

せんま

(8)

当社はかつて妙見菩薩を祀り、妙見宮」と呼ばれていた。妙見菩薩は秩父父親音靈場開創の十三権者の一人である。当時神仏混合時代であり、仏教色の濃厚



石經が武田軍と交戦したら秩父地方は悲惨な戦場となつたであろう。元亀四年は天正元年で戦国の英雄武田信玄は戦場にて波乱の生涯を閉じたのである。かかる状況から武田軍の秩父の占領は短期間と思われる。

神社の武田軍の放火による焼亡建物は境内外では、藏福寺・本堂及び客殿、観音堂、札堂、奥の院（間口十二間）、門及び鎮守社、泉藏院本堂、阿弥陀堂、薬師堂、比沙門堂、諏訪の宮、牛頭天王社、天満宮、諏訪社御供所、稻荷社。

九年家康公は北條氏の朱印領七石を先例とし、新たに五十石を増寄し給いて五十七石の朱印領をくだされたのである。これで神社でも復興のめどがつき御本殿から着工できたのである。

ら昇殿したのである。

七つ井戸の水を使用した。

また、神社では当日の朝山主に御挨拶を申し上げるため神主が廣見寺に参上したのである。山主は伴僧と供をつれ、お駕籠にて神社においてになると、妙見宮神主蘭田氏と対面、お清めの儀をおえど、神主の先導にて社殿右手の寅の門か

天正七年、鉢形城主北條氏邦は御仮殿を造営し七石の朱印領をくだされたが、天正十八年には鉢形落城で七石の朱印領

祈願を厳修し祈願札は江戸城に献上した

これたゞい多くの廻物が瞬時に  
焼失した。神社の苦痛は想像を  
絶するものであったと思われる。  
妙見宮縁起では、「信玄入道、軍  
旅には通じたりと謂ども、神罰  
の歸するとは知らざるこや」と

境内では正殿、祝詞舎、拝殿、神楽殿、舞楽殿、儲社三座、攝社八神、秩父大神、知知夫彦命、天神地祇七十五社、諏訪上下の宮、稻荷明神、天満天神社。



## 「秩父未来会議」の結成に向けて

宮 司 蘭 田 稔

### 一 マチおこしの提案

今年の夏祭りに刊行した前回の社報第十九号の論説で、私はマチおこしに「町ぐるみ回遊型の祭礼博物館づくり」を提案しておきました。

その要旨をかいつまんで申しますと、

(一) 秩父の地政学的条件は、首都圏という大都市社会の後背地に当たる典型的な中山間地帯として、その貴重な水源涵養山林に恵まれるとともに豊かな伝承文化を保有して上質の観光と保養という総合的な環境資源に満ちた地域である。

(二) そうした当地方ならではの自然と文化の風土を最大限に活かす拠点としての秩父市の市街地活性化には、街全体を強烈な個性をもつ大きなコンセプトの下に再開発するマスタープランを構築することがぜひとも必要である。

(三) そのコンセプトに考慮すべきは、秩父を代表する武甲山と荒川という貴重な自然を風土化した祖先たちがその恵み

を神徳として敬愛し感謝してきた祭礼文化こそが、今や我々住民に残されたかけがえのない個性的な生活基盤なのだということである。

(四) そこで提案するのは、中心街を形成する祭の各屋台町に全国の祭礼文化の特定分野を専門に企画展示する分館を配置して、街ぐるみ

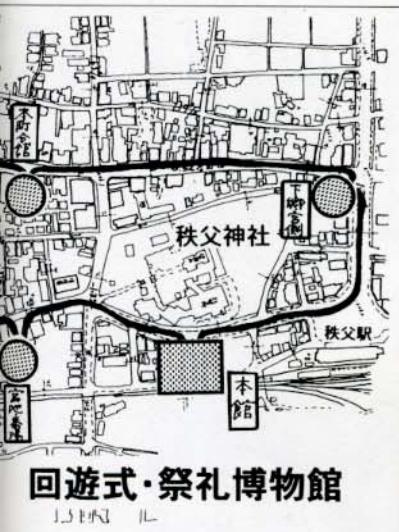
回遊型のユニークで総合的な祭礼博物館に仕立てあげることによって、各分館を回遊する観光客たちに休息や食事、買物の行楽を提供する商店街を再構築する」というものでした。

### 二 「内発的発展」こそ活性化の鍵

これは、けっして当社のために構想ではなく、秩父市ばかりか郡市全体の現状と将来を見据えて秩父ならではの起死回生策と考えての試案でした。しかし残念なことに、地元市民の皆さんからはほとんど反応がなく、むしろ意外にも遠方の人からの好意的な反響のみに終わりました。その反響の一例は、先日のこと茨城県日立市の青年会議所からの要請で、日立市のマチおこしに「日立風流物」を活用する提案のシンポジウムに助言者として私を招待してきたもので、もちろん喜んで私見を述べて参りました。この風流物とは、日立市内に鎮座する神峰神社の祭礼行事となる巨大な人形からくり山車四台のことです。そこで秩父の笠鉢屋台と同じ国指定重要民俗文化財ですが、典型的な企業城下町である日立市でさえ地域の活性化に伝統文化財の活用を考えねばならない時代なのです。

たまたま去る十月三十一日(日)付けの朝日新聞朝刊が社説「世紀を築く」シリーズ23回として「地域づくり」を論じていましたが、そのなかで従来の企業誘致で地域振興をはかる「外来型開発」が相次ぐ企

業の撤退で軒並み打撃を受けていることを指摘して、今後は「地域がもつ資源や人材を生かし、環境や住民の生活の質を大切にしながら発展をはかろうとする」「内発的発展」こそ有効なのであって、しかもその成功の「カリギは一貫した思想」だとして全国各地の地道な成功例を紹介していました。この「内発的」発想ほど、今の秩父



回遊式・祭礼博物館

13丁目 1ル

のマチおこしに必要なことは他にないと痛感しているところであります。

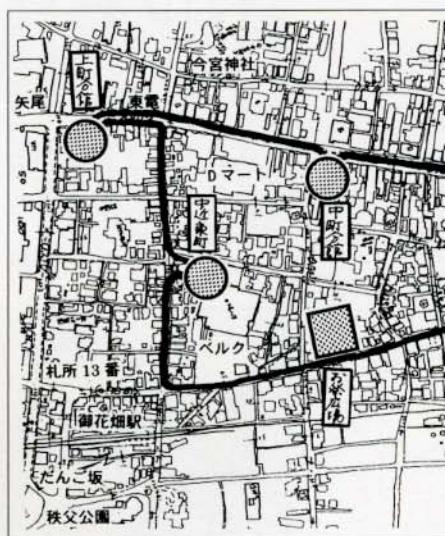
### 三 「秩父未来会議」の結成を

おそらく現在の実情を知る地元民の方々には、前回の社報での「マチおこしの提言」がかえって空飛な発想と見過ごされたにちがいありません。

もちろん、この提言はあくまで、私個人の構想ですから、たとえ地元地域の実態を日ごろ憂えておられる方々でも、いきなり突き付けられても応えようがあるまいとは承知しているつもりです。しかし、そうした心ある郡市民も、秩父地方の現状をこのままに見過ごして愛する郷土の沈滯ぶりを放置してよいと、まさかあきらめているとは思いたくありません。

少なくとも過去十年のあいだ、当社宮司として広く地元各界の皆さんと公私にわたるお付き合いをさせていただいきたなかで、特に個人的には、地域を愛する熱情とその現状打破に向けてさまざまな創意工夫の意見を持つておられる方は、けつして少なくないのです。ところが、どうしたわけか、そうした折角持ち合せた多彩な意見を交換しあって、更に広い検討の場で実現可能な構想にまで練りあげていく自由討議の機会が、いっこうに立ち上げられる気配がない。これは、まことに残念なことで、このまま郷土の現状を座視して退闇的な時世に流されるようでは、次代を担う地元の若者たちを失望させるばかりではないでしょうか。

そこで、まことに僭越ではありますが、この際「秩父未来会議」の結成を中心ある地元の皆さんに呼び掛けたいと存じます。この会議は、関係各位がご承知のように、当社の奉賛会長、井上久氏が前回の県議選の折りに提唱されたものですが、この貴重なアイデアを頂戴して実現させるものです。実は、



#### 【表紙絵解説】

この度、「妙見さま」と「武甲山さま」そして水の神さまである「龍神さま」が、まさしく「夜祭り」の祭場「お花畠」で繰り広げられる一夜の出来事を描いた絵画作品を表紙に掲載させていただきました。

そのタイトルも

#### 「夜祭り縁起」

師走三日の霜降る夜に

秩父神社の女神さまと

武甲山の男神さまが

年に一度の逢瀬の契り

と題します。

この作品は大里郡寄居町に住んで居られる画家 山田 保徳先生によって描かれていました。ここで山田先生の略歴をご紹介します。

尚、今回の表紙絵は平成殿一階展示ホールにて常設展示により御覧いただくことが出来ます。

大正十年（1921）広島県広島市生れ。昭和十七年旧海軍に入団、戦艦大

こうした討議の場にも利用できることを念願して当社の平成殿の建設を目指なことでもありますので、この施設を活用して「秩父のマチおこし」をテーマに自由で活発な話し合いを重ねる会議とさせていただくつもりです。その結成に向けて、まずは少數の同志による発起人会を開設、来春に発足させるべく努力いたしますので、その節はなにとぞ宜しくご協力のほどお願ひいたします。

和乗員となり、昭和二十年八月終戦を迎え、復員の後日本画にて出展活動開始併せて出版社、新聞社の挿し絵を描き始めました。昭和三十三年、講談社専属の画家となり、少年少女向けの漫画「バスよ尾をふれ」を描き、當時の人気調査では「サザエさん」を抜き三年連続トップを占めました。その後、フリーとなり小學館・集英社・その他出版社に多数の絵や物語を連載。

昭和五十七年埼玉県寄居町に移り、話の発掘や日本画に比重をおいて活動し続け、平成九年呉市の依頼を受け大作「戦艦大和」を完成。平成十年四月、劇画による「癒し伝説戦艦大和」を出版されました。

氏子青年会創立十周年を迎える

当社氏子青年会では、平成二年四月十五日発足以來今年で十周年を迎えたため、父神社參集殿に於いて米賀他会員有志約一三〇名が出席し賑やかに開催されました。先ず役員は神前に奉告のため昇殿参拝、午後二時から境内側、平成殿正面玄関脇に「氏青会創立十周年」記念と、「天皇陛下御即位十年」を奉祝し枝垂桜一本が記念植樹されました。

また、午後四時からは参詣殿二階において記念式典が挙行され、神宮巡拝・国歌齊唱の後、会員及び関係物故者への黙祷を捧げ式典が開始されました。

の話題に拍手や大笑いに包まれた和やかな懇親と友好の時間を過ごしました。時恰も天皇陛下御即位十年奉祝の国民祭典が行われるこの秋、陛下の御即位奉祝パレードに有志四二名が参加しお祝い申し上げたことが昨日のことのようすに思い出され懐かしい話が尽きませんでした。同会では、十周年記念事業の一環として来年一月に祚の杜を始め境内の整備を企画しております、今後も地域それぞれの立場で会員の活躍が期待されます。



御即位十年をお祝いする

平成十一年十一月十二日皇居前広場を会場に、天皇陛下御即位十年をお祝いする「国民祭典」が開催されました。

に参加して、たのです。式典は映像で綴る御即位十年と題し、広場に設置された大型ビジョンにより放映されました。傘が邪魔をして見ることが出来ません。これでは、折角のお祝いに提灯にあかりを灯す事も叶わないのかと私達は祈り続けました。すると、周りの傘が一つまた一つと閉じられてゆくではありませんか。お祝いに集まつた三万人の願いが天に通じたのです。続く御即位十年のお祝いメッセージでは、政財界、各国駐日大使、芸術・芸能・スポーツ界の各界著名人およそ百五十人がステージ上に並びそれぞれの代表者がお祝いを述べられ、そして国民を代表し小渕内閣総理大臣が祝辞を述べられました。

午後六時半過ぎ、天皇皇后両陛下には二重橋にお出ましになられ、YOSHINO KIさん作曲の「奉祝曲」演奏、参加者全員による君が代齐唱につづき、陛下からのお言葉が述べられました。そして、参加者が持つ日の丸の小旗や提灯が掲げられ万歳三唱が暫らく続いた後、両陛下は静かに御所へとお戻りになられました。

この度の式典では、時折雨が降つたり又一所に六時間も立ったままの状態が続いた私達ですが、陛下の「皆さんの祝意に対し、感謝します。皆さんもぬれて寒いのではないかと心配しています」というお言葉にその劣は何処かへ吹き飛んでしまった様です。それは、あたかも雨雲が去つて行つたこの日の天候と同じ様でした。



「神宮大麻・曆頒布式」は午前十時より厳かに斎行され、当社浅見宣官が斎主を秩父青年神職会員十名が典儀・副斎主以下祭員・伶人を行われていまし  
て理解を深めていたぐため、同日での開催となりました。



梶だより

◆「神宮大麻・暦颁布式」並に  
「秩父郡市神社関係者大会」のこと

ふくろう  
飛  
行  
シ

奉仕しました。

◆ 会画寄曾報告

今回社報の表紙絵に掲載させていた  
だきました山田保徳画伯の作品「夜祭  
り縁起」は、左記の方々により当社に  
寄贈されましたのでご紹介させていた  
だきます。

勉強してあります。  
「自然を愛する者は、自然の寵愛を受けている人である。」

十一月二十一日、去る十一

— 1 —

奉仕しました。  
続く「神社  
関係者大会」  
は、平成十年  
度神社庁秩父  
支部並びに氏  
子総代会の事  
業報告、同決  
算認定、天皇  
陛下ご在位十  
年奉祝について  
の功績が認められた氏子総代二十二名  
特別功労者二十二名、神樂功労者五名  
獅子舞功労者二名の方々の表彰式を経  
て第二部へと進みました。

小池 矢尾 清様 宮前 洋一様  
世界商事㈱様 井上宗一朗様  
森 哲男様 福島 弘文様  
彦久保一光様 引間 弘様  
柴崎セツ子様 齋藤 德生様  
高橋 昌平様 高橋 定雄様  
轟 良衛様 文雄 様

◆平成殿二階展示木一九

「現代墨絵展」紹介

平成十一年十一月一日より十五日までの期間、秩父郡小鹿野町に住む墨絵作家、古館興さんが主宰する興墨会の皆さんによる「現代墨絵展」が開催されました。

興墨会について、主宰者である古鎧さんから、次のようなメッセージをいただきました。

『墨絵そのもののすばらしい情景が日常的にあるこの秩父で、住んでいる人達がそれぞれにこの価値を知つていただきたく、一つの方法として墨絵教室を開設致しました。その運動も早や十年、四ヶ所の教室を通じ現在約六名の愛好者が心の豊かさを実践すべ

「自然を愛する者は、自然の寵愛を受けている人である。・・・・・愛する者に幸あれ。」

今回の墨絵展では、四季折々の風景や植物を題材にした作品が中心となり、芸術の秋にふさわしく、連日多くの参拝の方々で賑わいをみせていました。

◆ 秩父神社妙見講

至自平成十一年九月  
平成十一年十一月

金子秀行講元外三十名

高橋信一郎講元外四百七十七名

半田鉄元講元外三百三十四名

十月三日 上宮地講  
今井奎吾講元外百七十四名

出浦義雄講元外百三十名

持田恭三講元外百二十一名

実習生 柳田耕史 職員会

(十月一日付)

◆辰のお話と宝探し

平成十二年は庚辰（かのえたつ）歳です。当社社殿にも、いくつかの龍の彫刻が見られます。「夜な夜な社殿から抜け出しては神社近くの天ヶ池に現われ、一頃り水を飲んでは周囲の田畠を荒らす」とから鎖でつなぎ止められた」と伝わる「つなぎの龍」は大変有名です。時折、参拝の方から、「どうして青い龍だけが鎖でつながれて、反対側の龍はつながれていないの」と質問されることがあります。

一説によると、「龍」は夜空に輝く「北斗七星」のかたちに重なりあい、「柄杓」のかたちに表わされる北斗七星は、ちょうど龍の頭の部分が柄杓の「合」という水などを汲み入れる部分にあたり、胴から尾にあたる部分が柄杓の手を持つ部分の「柄」で表わされると言います。そして、この北斗七星で表わされる龍

は、春分の日の夕刻・東の空に「合」の頭の部分が天に向かって見え、またその半年後の秋分の日の夕刻・西の空に頭の部分を下して地に降りてくるように見えることがあります。前号の「申・酉・戌の話」のなかに記した図のように、季節の春は方位の東を示し、また季節の秋は方位の西を意味します。

すなわち、東の龍はまさに天に向かって昇つてゆく「昇龍」であり、西の龍は地に降りてくる「降龍」を意味しているのです。

本殿両側に彫刻される龍を、この説についてみると、社殿の東側に彫刻される「つなぎの龍」は、昇龍のために鎖でつなぎ止められた龍が、そのまま天に向かって昇つてゆく「昇龍」である。一方で、西側に彫刻される龍は、昇龍のために鎖でつなぎ止められた龍が、そのまま天に向かって昇つてゆく「昇龍」である。一方で、西側に彫刻される龍は、昇龍のために鎖でつなぎ止められた龍が、そのまま天に向かって昇つてゆく「昇龍」である。



國田宮司は、去る九月二十四日初めて中国を訪れ、杭州市の浙江大学で日本の神道について教授たちや大学院生たちを対象に講演をして、同月二十九日に無事帰国しました。

国际都市・上海の南にあって漢詩で有名な西湖など山紫水明の景勝地に恵まれた浙江省の省都・杭州市も近代化の進む人口二百万の大都会。そこに所在する中国有数の総合大学・浙江大学には数少い日本文化研究所があつて、今年が設立十周年ということで記念行事に盛大な宝生流能楽の初演など数々の日本文化の本格的紹介が挙行されたこと。

宮司の神道講演は、同研究所と神道国際学会と



め鎖でつながれていないのかもしれません。

■ そして、この社報も創刊以来十年が経とうとしております。年二回の発行で皆様方に、神社行事や歴史、またその他身近な話題など数多くの情報をお伝え出来ればと考えております。これからも宜しくお願い致します。

※この用紙はグリーン・エトロロマット100%の再生紙を使用しています。

■ グラハーム教授即位十年をお祝いし、ここに、社報「作乃杜」第二十号・奉祝記念号をお届け致します。

この平成の十年を振り返ってみました。案内でも紹興市郊外の書聖王羲之かりの蘭亭を見学したり、また宮司の要望が叶い、約千二百年前に伝教大師最澄が渡唐して山林仏教を学んだ故地の天台山国清寺を二日がかりで見学できるなど、学問上にも貴重な成果が得られたとのこと。

かねて宮司が志す海外への神道紹介と文化交流の更に深まることが期待されます。

■ グラハーム教授即位十年をお祝いし、ここに、社報「作乃杜」第二十号・奉祝記念号をお届け致します。

## 編集後記